

# 事例研究報告

## 高等部生徒が集中して 授業に参加できるための支援

～集中力の維持や気持ちの切り替えの手段を身につける～

# 生徒の実態

障がい名  
知的障がい  
自閉スペクトラム症



- ・行動や言葉には幼さがある。
- ・相手との距離感が近い。
- ・指摘などにはすねたような態度になったり、話題を変えようとして会話が成立しないことがあったりする。
- ・すねたときには行動が停止するときもあるが、少し時間が経つと元の活動に戻ってくる。

## 保護者の願い

将来、生活力を身につけ、仕事を続けられるようになってほしい。

## 教員の願い

- ①授業に穏やかに参加できるようになってほしい。
- ②気持ちが落ち込んだ時に、自分から「時間（休憩）が必要である」と適切に伝えることができるようになってほしい。



## アドバイザーからの助言



○できていることに対して、フィードバックを多めにする。

(授業の中で、はじめは5分に1回くらい、こまめにT2が生徒を誉める。)

○アンケートなどの抽象的な内容の活動の場合



どのようにするのか、何のためにするのか等の納得感がもてるように事前に説明が必要。また、本人に説明した上で内容量など決めてもらうようにする。教員のプロンプト(先生はこう思うけど、あなたはど  
う思う?)は強めで良い。

## アドバイザーからの助言



○自分が聞いていないことに対して、「やらされている」という感覚を持ち、嫌になっている。



「イライラしたらダメ」と言う指導ではなく、イライラした時に自分で対処ができたなら、最高に誉める。最初は先生に伝えることから始め、「カードをわたす」等から自分の言葉で伝えるように移行していったらどうか。

## 助言を受けての見直し

本人からの聞き取りをもとに、イライラしたときの伝え方の手順と本人が可能な伝え方について確認を行う。



本人の納得感が無いと行動に移すのが難しい。

その上で、教員用の手順共有シートと本人への説明用の手順シートを作成し、指導前に本人と伝え方の手順について確認を行う。



授業者で共有シートを使って共通理解を図り、同様の対応ができるようにする

# 指導の手続き1



## 介入1

- ①イライラしてきたタイミングで教員が声をかける。
- ②授業に参加できない時は、本人が筆箱などの机上有るものを床に置く。動きがない場合は、教員が本人に確認をして筆箱等を床に置く。  
その後、声をかけずに見守る。
- ③授業に戻れるタイミングで本人が床に置いたものを机の上に戻す。動きがない場合は、タイミングを見て教員が本人に確認をして床に置いたものを机の上に戻す。

# 指導の手続き1

## 介入1



- ④授業に戻ることができたら、「いいね」のハンドサインをして褒める。
- ⑤授業終了後、適切に伝えられたことを褒め、シールを貼る。



## 「介入1」の経過

○「イライラし始めた時に教員の言葉かけでグッズを床に置く」という手続きがうまくできなかった。急にイライラすることがある等を理由に、決めていた手続きでの指導に拒否感を示し、上記の方法では記録をとることができなかった。

○手順を変更し、「自分から伝える」ということをポイントにした。言葉やジェスチャー、少し強い言い方の言葉でも伝えることが大事ということをも本人と共有し、「介入2」として以下の手順で取り組むこととした。

# 指導の手続き2

## 介入2



- ①イライラしてきたタイミングで教員が声をかける。
- ②授業に参加できない時は、言葉やジェスチャーで「参加できない」ことを伝えるように言葉かけをする。  
強い言葉（ほっといて、黙って等）になってもOK。  
授業が進んだ部分に付箋を貼ったりiPadで写真を撮ったりして、本人の机上に置いておく。
- ③戻ってくるまでの時間の計測をする。  
(本人から声をかけてくる、課題に取り組みはじめる等の様子で復帰と判断する。)

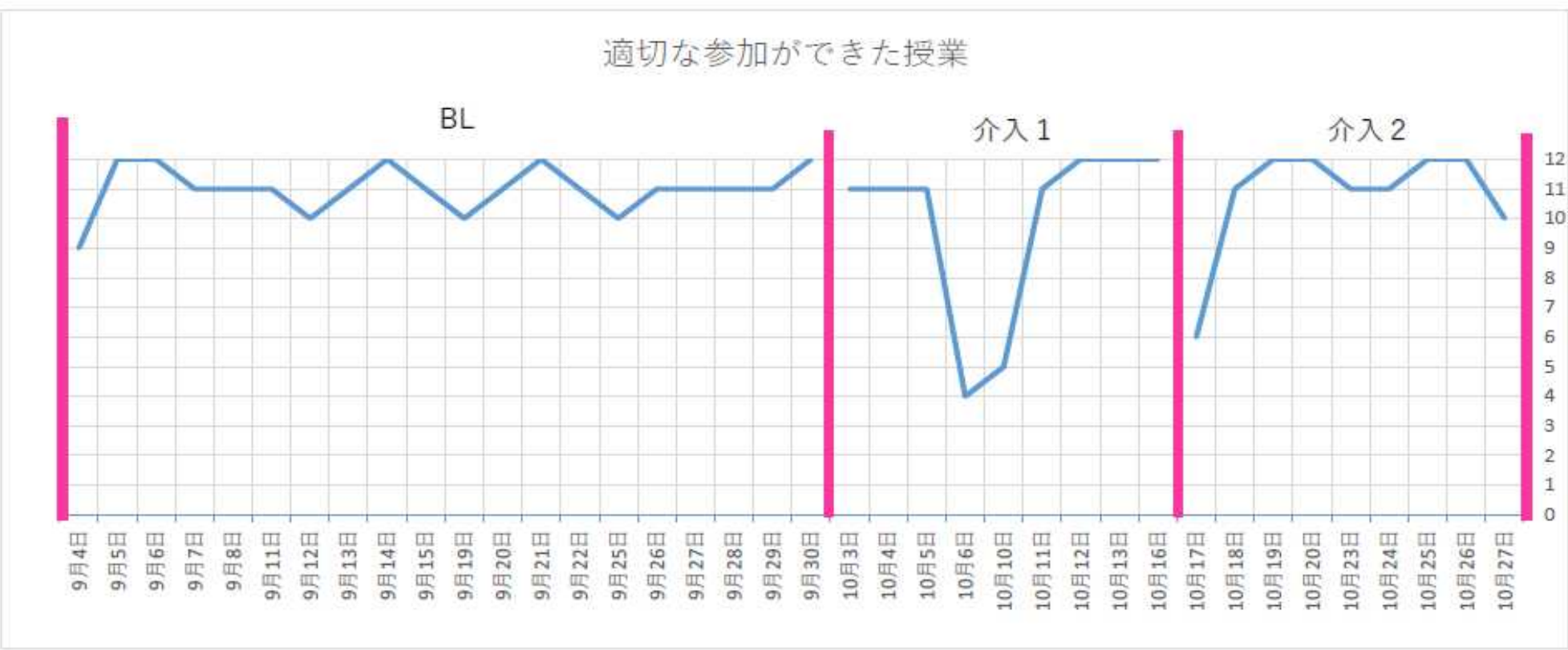
## 指導の手続き2



- ④授業に戻れたら、ハンドサイン等で褒める。
- ⑤本人と一緒に1日の振り返りをする。
  - ・活動に参加できた授業には○をつける。
  - ・週末には1週間の授業について振り返りをし、うまく伝えることができたことや、授業参加ができたことをシールで賞賛したり、称賛したりする。

# 記録方法と記録1

○参加できた授業時間を点数化して記録をした。



参加できた・・・2点  
半分参加できた・・・1点  
参加できなかった・・・0点

※9月8日、10月6日、10日は3校時  
10月17日は実習挨拶のため3校時で下校

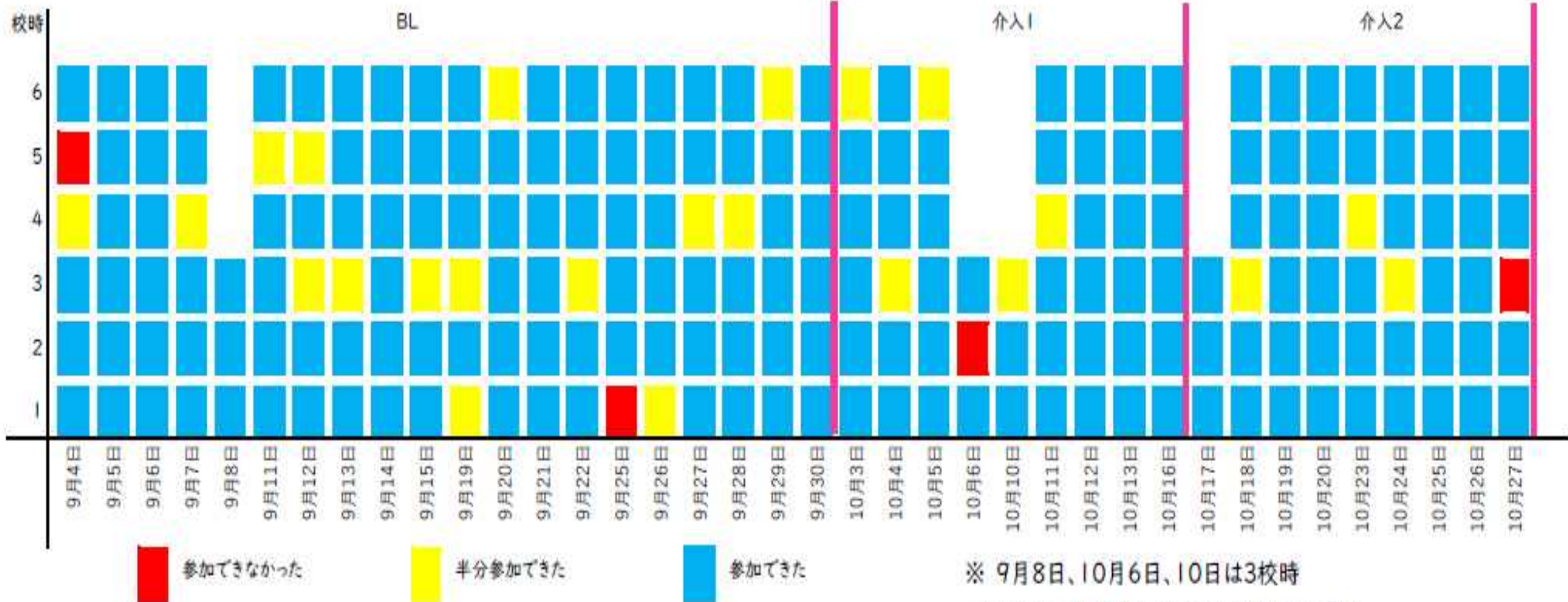
6時間授業のため、12点満点とする

# 記録方法と記録2

○どの時間帯が崩れやすいか分かるように、校時単位で色別にグラフ化した。(アドバイザーの助言より)

- ・3時間目、4時間目に崩れることが多い傾向あり。

適切な参加ができた授業



※ 9月8日、10月6日、10日は3校時

10月17日は実習挨拶のため3校時で下校

# 指導の成果

○指導前では、1日に1～2時間、イライラして授業参加がしづらくなることがあった。

○1日適切に授業参加ができる日もあり、崩れたとしても持ち直せるくらいの状態のこともあった。



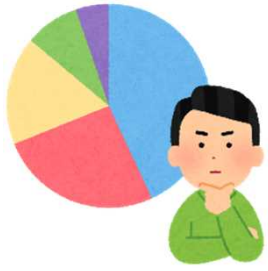
# 指導の成果

○介入後は、1日6時間、適切に授業に参加できる日が増え、本人が環境や気持ちの立て直しに前向きに取り組もうとしている様子がより見られるようになった。

○介入2からは、「伝えることが大切」と本人と共有したことで「イライラする」等を伝えることができる回数が増えた。また、数回ではあるが「これだけする」などポジティブな言葉で提案を伝えることもみられるようになってきた。







# ここが成功のポイント



○記録をとることで

→教員間で状況の共有ができたこと。

→授業がわかりやすいと、生徒が適切に授業参加ができるということに気づくことができたこと。

○グラフ化することで、指導の効果を確認することができ、支援の方法をより効果的なものに再考することができたこと。





# ここが成功のポイント



- 生徒の気持ちを確認し、手立てを共有することで、生徒が自分の気持ちに気づき、教員に伝えることができるようになってきたこと。
  - イライラした気持ちを言葉で伝えられる場面が少しずつ増えてきた。
  - 本人から「しばらく話しかけないで欲しい」ということを、伝えられる場面が増えてきた。



# ここが成功のポイント



○ポジティブな言葉で伝え続けたこと。

→生徒が自分で納得できるまでの時間は必要だが、教員の提案を受け入れられるようになってきた。

→気持ちの切り替えが早くなり、授業時間内にほぼ授業復帰することができるようになってきた。

○今後は、自己評価や、自分の崩れやすい環境を知ることを通して、感情のコントロールが上手にできるようになってほしい。